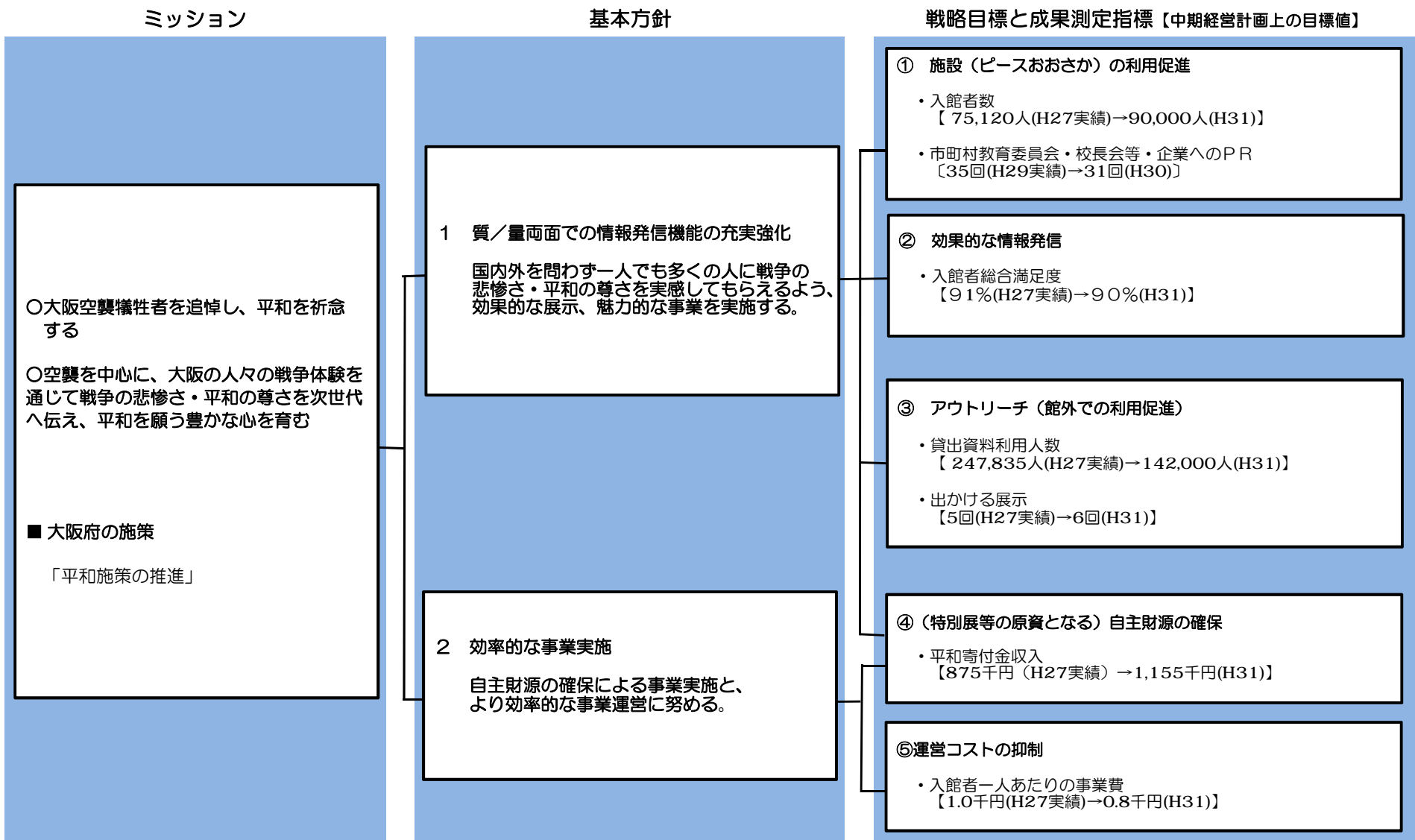


法人名	公益財団法人大阪国際平和センター
作成（所管課）	府民文化部人権局人権企画課

○ 経営目標設定の考え方



○ H29年度の経営目標達成状況及びH30年度目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)											
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (H29)	H28実績	H29目標	H30目標	ウエイト (H30)	中期経営計画 (H27～H31)		H30目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
						実績(見込)			H30目標	最終年度目標	
① 施設(ピースおおさか)の利用促進	入館者数		人	20	68,933	78,000	78,000	20	90,000	90,000	前年度目標と同数とし、目標達成に向け引き続き利用促進を図る。
						× 68,586					
	市町村教育委員会・校長会等・企業へのPR		回	10	28	31	↓ 31	10	-	-	前年度目標と同数とするが、効果的効率的なPRに努める。
						35					
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										具体的活動事項	
最重点とする理由、経営上の位置付け	<p>○ 当財団は、①大阪空襲犠牲者を追悼し、平和を祈念する ②空襲を中心に大阪の人々の戦争体験に関する情報・資料の収集、保存、展示等を通じて、戦争の悲惨さ・平和の尊さを次世代に伝え、平和を願う豊かな心を育むことを目的に、「大阪空襲を語り継ぐ 平和ミュージアム」大阪国際平和センター(ピースおおさか)の運営を基幹事業としている。</p> <p>○ 博物館や資料館のような施設は、どれだけの人々が利用したかが第一の関心事であり、その活動の重要指標として捉えられることが通常であることから、当財団においても、「施設(ピースおおさか)の利用促進」を最重点目標とするものである。</p>										
最重点目標達成のための組織の課題、改善点	<p>○ 当財団の運営費のほとんどは府市の補助金に依拠しているが、平成20年の財政再建プログラム案において「府派遣職員は必要最小限とし、民間活用等により運営コスト抑制」「特別展・企画事業への補助は中止」とされ、それ以降の補助金の減額も相まって、組織体制、事業展開とも極めて厳しい状況にある。このため、自主収入の確保を図りつつ、限られた人的資源・パワーを生かして、法人の目的達成につながる諸事業の効果的な展開が求められている。</p> <p>○ 先の大戦を自らの体験として語る人は少なくなるばかりであり、当時の人々の思いや戦争の悲惨さ・平和の尊さを伝えていく手段として、ピースおおさかの展示は今後ますます重要となっていくものと考えている。</p> <p>○ このため、「大阪中心」に「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えることができる展示」に抜本的にリニューアル(平27.4.30リニューアルオープン)したピースおおさかを基幹として、戦争の悲惨さ・平和の尊さを次の世代へ伝えていくこととする。</p> <p>○ なお、展示リニューアル後も、研究の進展や世界の動きなどに対応した柔軟な展示、平和についてのワークショップの展開などソフト面での事業展開に工夫をこらしていくことも必要である。</p> <p>○ また、展示そのもののクオリティ、魅力の向上に加え、各種広報媒体や「出かける展示」など館外での利用促進を通じた積極的な情報発信、魅力あるイベント(特別展・企画事業)の実施による誘客のほか、ミュージアムグッズの充実なども必要である。</p>										
活動方針	<p>①(小中学生を中心としつつ)幅広い層に向けて施設の情報発信を行っていく。</p> <p>②魅力あるイベントの実施やミュージアムグッズの充実を図っていく。</p> <p>③平和に関するワークショップを展開していく。</p>										

- ①学校等に向けた情報提供・働きかけ
外国人等の観光客に向けた情報提供・誘導
各種媒体を活用した情報発信の充実
- ②特別展、企画事業の実施、ミュージアムグッズの充実
- ③平和に関するワークショップの展開等

法人名	公益財団法人大阪国際平和センター
-----	------------------

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (H29)	H28実績	H29目標	H30目標	ウエイト (H30)	中期経営計画 (H27～H31)		H30目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						実績(見込)			H30目標	最終年度目標		
② 効果的な情報発信	入館者総合満足度		%	15	94	90	↓ 90	15	90	90	中期経営計画の目標値とする。	・特別展、企画事業の実施 ・ミュージアムグッズの充実 ・平和に関するワークショップの展開等
						95						
③ 館外での利用促進	貸出資料利用人数		人	15	118,962	137,000	↓ 140,000	15	140,000	142,000	中期経営計画の目標値とする。	・「府内学校園」以外の情報提供先の開拓 ・集客力の高いイベントでのPRなどによる貸出先の開拓
						140,616						
	出かける展示		回	15	6	6	↓ 7	15	6	6	前年度実績より算出。	・出店経験のあるイベントでの継続実施 ・集客力のあるイベント等の新規開拓、展示内容の工夫
						16						

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

④ 自主財源の確保	平和寄付金収入		千円	15	1,247	950	↓ 1,050	15	1,050	1,155	中期経営計画の目標値とする。	・寄附の税優遇措置のPR、あらゆる機会をとらえた説明、協力依頼
						1,430						
⑤ 運営コストの抑制	入館者1人当たりの事業費 (「一般会計」支出合計(事業活動支出額)／ 入館者数)		千円	10	1.1	1.0	1.0	10	0.8	0.8	前年度目標と同数とした。	・運営コスト抑制の取組の継続 ・目標入館者数の達成
						× 1.1						

【凡例】

- ・☆はH30からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・()は当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

公益財団法人大阪国際平和センター

CS調査の実施概要

○平成29年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
入館者総合満足度	アンケート（書面・本人記入）	施設入館者	4,279人	通年

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組	平成30年度にめざす状態
<p>リニューアル後の展示等への意見</p> <p>①見学順路（2階→1階→3階など）が分かりにくい。</p> <p>②文字が小さく、見にくいところがある。</p> <p>③照明の暗いところがあり、写真説明などが読みにくい。</p> <p>※リニューアル後の展示そのものを否定する意見もあり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害中心で、加害を知らせる面が弱い。 ・加害の事実が展示されていない。 など 	<p>①小中学生の引率教員の事前申込(下見)時に見学順路の説明に加え、音声ガイドの墨字版(順路の番号表示あり)を引き続き配付している。</p> <p>②見学頻度の高い1階の展示物である「大阪空襲一覧」「全国の空襲状況」は拡大して、3階のワークショップスペースに掲出している。</p> <p>③特に特別展の際に、説明がよみやすくなるよう照明器具の角度調整等を行っており、引き続き実施する。</p>	<p>物理的(デザイン、空間など)・財政的な制約がある中、展示ストーリーや展示のねらいとの整合を図りつつ、見やすく分かりやすい展示となるよう努めていく。</p>

○平成30年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
入館者総合満足度	アンケート（書面・本人記入）	施設入館者	5,000人程度	通年

・CSに関する平成30年度目標（再掲）【※戦略目標の場合】

戦略目標	成果測定指標	単位	H28実績	H29目標	H30目標値	CS調査の数値を戦略目標に設定した理由及び目標値の根拠
				実績（見込）		
②効果的な情報発信	入館者総合満足度	%	94	90	90	<p>（設定した理由）</p> <p>展示施設として時代のニーズに応じたサービス提供やミッション（法人目的）の達成に資するため</p> <p>（何をめざすのか）</p> <p>「ミッション（法人目的）の達成」「利用者満足」「コスト」等のバランスの取れたサービス提供をめざす。</p> <p>（目標値の根拠）</p> <p>中期経営計画による</p>
				95		

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

29年度の 成果測定指標	単位	29年度の目標値	29年度の実績値 (見込)
入館者数	人	78,000	68,586

未達成の要因と分析	【要因】①学校関係 ②学校以外
	<p>【分析】</p> <p>①学校関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生の来館者数の減少 ・1校あたりの来館者数が減少(校外学習が学年・クラス単位からグループ単位に変更) ・大阪市外→来館までの安全確保や移動に要する経費が負担になっている。 ・カリキュラムの増加により、校外学習の時間が奪われている。 ・教員の平和研修の機会の減少により、ピースおおさかを知らない教員が増え、校外学習先として選択されなくなっている。 <p>②学校以外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人の来館者数の減少 ・リニューアル効果が収束し、大人の利用が確保できなかった。 ・近隣でもピースおおさかを知らない人や、来館したことのない人がいるなどまだPR不足 ・かつて行われていた教員研修・企業研修が減少している。

今後の改善方策	①学校関係
	<ul style="list-style-type: none"> ・ピースおおさかを教員研修の会場とするよう働きかけ、教員及びメインターゲットである小中学生を中心に来館を促進する。 ・当館における「教員のための平和学習講座」を充実させる。 <p>②学校以外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社や大阪観光ボランティア協会との連携により訪日外国人の誘客に努める。 ・発信力のある人を招いたイベントの検討、平和を幅広くとらえた多様なイベントの実施。 ・近隣自治会や企業との連携を強化する。等

〔2〕

29年度の 成果測定指標	単位	29年度の目標値	29年度の実績値 (見込)
入館者1人当たりの事業費	千円	1.0	1.1

未達成の要因と分析	【要因】入館者数が目標に届かなかった。
	<p>【分析】</p> <p>78,000人を達成した場合 78,621,711円/78,000人≒1.0千円 であり、目標達成は可能であったと認められる。</p>

今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ①さらなる運営コスト抑制の取組み(消耗品費及び光熱水費等の削減)の継続 ②目標入館者数の達成
---------	---

■ H29年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
市町村教育委員会・校長会等・企業へのPR	回	35	31

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>○ピースおおさかでは、職員が4名と非常に少ない中で、府・市職員の支援も得ながら訪問PRを実施している。31回という目標値はH29年度目標と同数であるが、H30年度は、さらに来館してくれる可能性が高いPR先を選定し、最大限の効果をあげるよう重点的に取り組む予定である。</p> <p>○H30年度以降もこの目標値を達成できるよう、府市の支援も得ながら維持に努める。</p> <p>【H30年度目標値の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 年内までに目標数値の達成をめざす（H30年度の働きかけの多くは、H31年度に影響するため早めの活動が重要） ※ 小中学生の利用促進を図るため、市町村教委のみならず学校現場へのPRも実施する予定 ※ 企業は、館の設置理念を踏まえ利用促進を図る観点から選定の上、PRを実施する予定
-------------------------	--

■ H29年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔2〕

成果測定指標	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
入館者総合満足度	%	95%	90%

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>○ピースおおさかのような、戦争と平和について展示する施設においては、様々な意見がある中で90%という目標値自体が相当に高いものであると認識。H29年度では目標を上回っているが、様々な意見を持つ入館者を呼び込みつつ、アンケート等により徴取した来館者の要望や意見を参考にしながらこの状態を維持することが妥当であると考え、中期経営計画の目標値とした。</p>
------------------	---

〔3〕

成果測定指標	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
貸出資料利用人数	人	140,616	140,000

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>○戦後70周年というメモリアルイヤーであったH27年度（実績：約24万7千人）を除き、ここ数年間の利用人数は12万人前後で推移しており、実績からすると14万人は十分高い目標であると考え、中期経営計画の目標値とした。</p>
------------------	--

■ H29年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔4〕

成果測定指標	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
出かける展示	回	16	7

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>○H29年度は、とりわけ市職員の多大な支援を得て市立図書館での開催を集中して実施した（16回中9回）。しかしながら、H30年度は、市職員の支援の可否が不透明であること踏まえ、通常の財団事務局体制（契約職員4名（うち専門職員2名））という制約の中で、財団として最大限の実施に努める。</p>
------------------	---

〔5〕

成果測定指標	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
平和寄付金収入	千円	1,430	1,050

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>○H29年度はピースおおさかを支援する強い意思を持った篤志家の方から高額寄附が複数あり、目標（中期経営計画のとおり）を達成することができた。 H30年度以降も中期経営計画の目標を達成できるよう、呼びかけの工夫等を図っていく。</p> <p>①各種広報手段による寄附の呼びかけ、税優遇措置のPR （HP・館報掲載、チラシ配布、平和祈念事業等での呼びかけ） 併せて、寄附金が企画事業、特別展等の原資であることの周知</p> <p>②高額寄附への誘引となり得るグッズの検討</p> <p>③賛助会員への寄附依頼</p>
------------------	---